

はまどおり

第35号



会長 鈴木 貢

新しい年と、震災十年を迎えて
謹んで新春のお慶びを申し上げます。
まず。年頭に当たり会員の方々と
まとお家族の皆さまのご健康と
ご多幸をお祈り申し上げます。
今年こそオリンピック開催の年。
福島県浜通り地方Jヴィレッジ
(楢葉町・広野町)から出発し
全国を巡る聖火が、日本国民
に希望と勇気を奮い起すことを
期待しております。
昨年は、新型コロナウイルスの
脅威に翻弄され、会員並びにお
家族の皆様におかれましては、
何かと気苦労が絶えない一年だ
ったことと存じます。コロナ禍
の先行きは楽観できませんが、
一日も早く事態が落ち着きを取
り戻し、会員の皆さまと元気に
再会できますことを願ってやみ
ません。さて、私たちのふるさと
福島県浜通り地方が、三重苦の
大事故に遭遇してから間もなく
十年の節目を迎えます。

改めて被災された皆さまに対し、
お見舞いを申し上げますと共に、
お亡くなりになられた方々に、
心より哀悼の意を捧げます。
平成二十三年三月十一日(金)
午後二時四十六分に発生した
大地震。その後一時間もたらず
に襲来した大津波。
あの時から、私たちのふるさと
浜通り地方は一変して終いまし
た。白い砂浜、紺碧の海、緑の田
畑や街並が黒い海に飲み込まれ、
津波によりガレキと化した家々
が散乱する光景が広がり同時に
多くの尊い命が奪われました。
絶対安全と信じられていた福島
第一原発の事故は、周辺の住民
何万人の運命を変え、周辺の市
町村の運命も変えて終わりました。
この大地震・大津波・放射能漏れ
による三重災害は
「百年に一度、千年に一度」の
大災害と言われ続けています。
全国民の、温かいご支援により
ハード面の復元・復興は進みつつ

ありますが、忘れてはならない
ソフト面、元住民への心の支援、
就業による家計安定の支援に、
遅れが目についてなりません。
国や県、自治体や支援団体の
皆さま、更なるご尽力をお願い
申し上げます。
また、第一原発の廃炉につきま
しても、発表される度に、先延
ばしされるスケジュールの緩慢
さに、帰還を求めている元住民
の「ためいき」が高まるばかり。
ぜひ、内外の科学の英知を総動
員し本格的後始末を願います。
私どもの会では、大震災の発生
直後から、数多くの支援団体や
支援者の力をお借りし、ともに
多様な被災ふるさと救済を続け
て参りました。
震災十年の節目を迎えるに当り、
永年お世話になつて参りました、
多くの皆さまに対し、本紙面を
お借りし、心より御礼申し上げ
ます。
本当にありがとうございました。

被災ふるさとへ希望を贈る集い



懐かしの一枚 第二回
【被災ふるさとへ希望を贈る集い】
平成二十五年一月二十七日開催

東日本大震災

発災から十年に想う

吉野 正芳



発災から十年。

被災地の住民のみならず多くの人々の人生を大きく変えるような事態をひき起こした東日本大震災は、未曾有の災害を私たちが故郷にもたらしました。

東京福島県人浜通り会の会員の皆さま方やご縁のある方々にも被害に遭われた方がいらつしやるかと存じます。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに心からお見舞い申し上げます。

私がかつて復興大臣の任にあつた当時から今でも、ふるさと福島の大きな課題のひとつが風評被害対策であります。

福島は農業県であり、また浜通りは「潮目の海」と謂われる常

磐沖を眼の前にしており、水産業とその関連業に携わる多くの方々がおられます。

残念なことに、浜通りから消費地向けの一次産品の出荷額は大地震前とは比較になりません。

その安全性については国内のみならず海外の理解を得るべく努力することは政治に携わる者の重大な責務と認識いたしております。

その一方で、新たにふるさとに希望の灯りをともし可能性を秘めた構想が大きく羽ばたきつつあります。

すなわちイノベーションコースト構想であります。

わが浜通り地方に国際的な教育研究拠点をつくり上げ、人材育成は勿論のこと世界に通用する業績を上げることができる態勢を展開しようとしています。

いま我が国はじめ世界中が新型コロナウイルス禍の真ただ中にありま

すが、日常生活の中で自らを律しながら基本的な対策を講ずるしかありません。

私たちに可能性は無限にあります。叡智を結集し全力投球でいこうではありませんか。
(当会顧問 いわき市出身 元復興大臣 衆議院議員)



平成二十九年一月七日 双葉町タルマ市会場にて



避難者の皆さまと入浴付 箱根日帰りバス旅行

撮影・鈴木

コロナ禍での初の新年に寄せて

佐藤 正久



新年、あけましておめでとうございます。

昨年の今頃はよもやここまで深刻になるとは思いもしなかった。コロナ禍での初のお正月ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」での集団感染を皮切りとした昨年三月以降の国内の急速な感染拡大では、ウイルスの正体が不明確だったこともあり国民不安と社会・経済の大規模な委縮が起りました。

浜通り会の皆様におかれましては、公私ともにコロナ禍の影響とそれに伴うご苦勞は少なからぬものがあつたこととご推察いたします。

私も講演会や国政報告会、全国各地の自衛隊諸部隊の視察などが軒並み中止または大幅な延期

を余儀なくされ、政治活動に大きな支障をきたしました。

また、私ごとですがお盆の帰省も断念せざるを得ませんでした。国会や自民党の各種会議でもコロナ対策と経済の両立につき、議論の末、各種施策や予算の裏付け等に積極的に携わりましたが、まだまだ、足りないところがあり、引き続き、全力で当たって参ります。

皆様におかれましては、この年末からお正月にかけてもクリスマスや忘新年会などの各種会合がままならない状況が続きます。かさに欠ける世相ではありません。しかし、その分家族そろって過ごす時間が長くなり、家族の絆は深まったのではないのでしょうか。あるアンケート調査では、

コロナ禍以前より夫婦仲が良くなったと答えた家庭の数は、悪くなったと答えた家庭の数の三倍にのぼったそうです。

コロナ離婚などという言葉があります。新年度コロナウイルスも家族の絆を壊すことはそう容易には出来なかつたとみえます。お子様やお孫さんのご帰省がかなわず、例年よりも物静かな年

末年始をお過ごしの方も多々と思われませんが、その分、常日頃顔を合わせられる家族、友人、知人の方々との何気ない絆を改めて確認してみるよい機会とされては如何かと思う次第です。最後に、皆様のご健康とご多幸をこ祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(当会顧問 福島市出身
前外務副大臣、参議院議員)
コロナ禍で思うこと

川久保 格(いたる)



連日、コロナ関連のテレビ放映がある。すみやかにコロナ禍から解放されたいと願っている。今年のお盆の帰郷ははばかられ、電話での近況となった。

一秒も早くコロナ予防のワクチンの完成が望まれる。

海の彼方ではワクチン接種が始まったとか、ワクチン安全性への最終段階試験に入ったとの報

道があるが、我々医療機関にワクチンが手に入るのには、しばらく月日が掛かると思う。まずは、コロナに罹患しないことにつぎ。

そのためには、十分な栄養、適度な運動は欠かせない。スポーツクラブが閉鎖され、夜の散歩くらいしか出来なかつた。それで、指輪つかテスト(ふくろはぎの最大の部分を両手の親指と人差し指で囲んで隙間があるかどうか)で運動不足かどうかを測っていた。

最近、スポーツクラブの再開で、その悩みは解消された。話は変わる。今年度の国家の災害復興予算は六千三百三十億円で、前年度より一兆円減との報道があつた。

東日本大震災後十年目となると、今までの様な予算が見込まれるかどうか心配である。平沢勝栄新復興相が高校時代まで福島県で過ごしたことが福音になればいいと思っている。

令和元年定期総会で乾杯(発声)の氏

(相談役 川内村出身 医学博士
川久保診療所 胃腸科 循環器科

内科、横浜市神奈川区)

東日本大震災の
発災十年目を迎えて



田中 慶秋

く昨日の事のように思える大震災でした。

亡くなった方々のご冥福を祈ると共に避難された方々にお見舞い申し上げます。また、復興に向けてご尽力抱いている方々に心より感謝申し上げます。

今回の東日本大震災は故郷を大きく変え、福島の街をも変えてしまいました。十年の歳月を持つても戻らぬ変容を肌で感じる私にとって、自然の力には人は勝てないとの言葉通りで何とも心苦しいばかりです。

残念ながら新型コロナウイルスでオリンピックが翌年に延期されました。しかし、延期されたオリパラの聖火が双葉郡から新たにスタートすることになっていくことは、夢があり大変喜ばしいことです。

私は浜通り浪江町で小、中、高

と過ごしました。同級生には、外務省でフィリピン大使として活躍された荒正義氏、同窓で日本医師会会長として活躍された原中勝征氏、文化芸能で民謡歌手として活躍されている原田直之氏等々と多くの方々と同郷ではなしえない出会いがありました。その多様なジャンルの方々の語り合いは私の人生に大変深く影響を与えてくださり、感謝しています。

そこで、先輩方より多くの言葉を頂いてきた中で今回は、私が何より大切にしてきた次のことをご紹介いたします。

人の道

忘れてはならぬものは恩義
捨ててはならぬものは義理、
人に与えるものは人情、
繰り返してならぬものは過失、
通してならぬものは我意、
お金で買えぬものは信用、
笑ってはならぬものは人の失敗、
聞いてはならぬものは人の秘密
福島の完全なる復興と新型コロナウイルス感染症の早期収束をお祈り申し上げます。

(顧問 浪江町出身)

元法務大臣 元衆議院議員

コロナ自粛の中で

原田 直之

昨年三月からの自粛は私達芸能界にも大変な被害が出ました。それはどうしても大勢の人の前で歌ったり演奏するからで、又お稽古は一对となつての指導するからです。

三月から十二月迄、仕事や自分の会の行事、民謡界の行事は全て中止となりました。

教室は九月から再開しましたが、やっぱりコロナが心配で休む人が出てきました。

私は毎日声を出してないと不安なので、一日に三十分は大声で

歌って調子を整えています。

テレビの公開録画も半年振り十月から再開。土浦市でのNHKテレビ「民謡魂」に出演しましたが観客は三分の一くらい、全員マスク感染対策に厳しいチェックでした。

しかし久しぶし振りにお客の前でふるさとの新相馬節を歌って嬉しかったですネ。

一日も早い終息を祈りながら、今年もふるさとの応援歌・民謡を歌って参ります。

(相談役 浪江町名誉町民

民謡名人)



伝染病と人との戦いの歴史

徳田 實



謹賀新年

昨年、アメリカの高名な学者が「ソフトな緊急事態宣言を聞き入れた日本人の不思議」と題し論評を発表しました。

強権を使わず、要請で、外室を減らし経済の再生に努力を続けて居る日本人の民度の高さを評価した論評です。

何時、止むなく強権による緊急事態発動されるかは歪められませんが、極力平常心を保ち秩序と節度を守り、今回の危機を乗り越え、少しでも明るい新年を皆様と共に歩んで参りたいと祈念申し上げる次第です。

生物の起源は数億年前、人類の起源は二十万年前、人間は生物の中で一番新しい生物です。ウイルスが人に感染し始めたのは約一万年前と云われています。以来今日に至るまで人類とウイルスの果てしない戦いが続いて

いる。

ペストは紀元前、中国で発症し、世界に伝わり十四世紀ヨーロッパで感染拡大二千万人以上、全世界で一億人が死亡したと云われています。

十六世紀、世界遺産「マチュピチュ」南米インカ帝国は天然痘格大により滅亡した。

スペインの将軍が二百名弱の兵隊を連れ攻込み、天然痘にかかって居た一人の兵士を利用して、インカ帝国の住民に感染させました。瞬く間に感染が広がり、総人口千六百万人中約三分の一、六百万人が死亡。隆盛を誇ったインカ帝国は滅亡しました。百年前アメリカでは

「スペイン風邪」が発生し全世界に感染格大、世界人口の四分の一、約五億人が感染し、死者は数千万人に達したと伝えられています。

日本では奈良時代天然痘が発生、時の権力者藤原一族が相次いで感染し亡くなりました。

当時の日本人口五百万人中、百万人から百五十万人が死亡したと云われています。

その他、コレラ、チフス、インフルエンザ、SARS、

MER、今回新型コロナウイルス、

人類とウイルスとの戦いは続きそうです。未だ無数のウイルスを野生動物が保有している。

以上ウイルスに関し学者の説を交え申し上げます。

新年はコロナウイルス感染対応で新薬が開発されると思えますが、生活構造改革が進められ、生活様式も一時的に変わると考えられます。皆さまと共に健康には特に厳しく留意、少しでも明るく新年を歩んで参りたいと一益ご祈願申し上げます。

山は青き阿武隈の山脈、水は清き故郷、想い出ずる故郷。

「頑張ったんだっぺー」を改めて衷心よりご祈念申し上げます。

迎春

(相談役 いわき市出身 総合建築資材 榎徳殿 会長)

神宮外苑、黄葉のささやき

伊藤 克子

私は生来の怠け者なので、何もしないでポウーとしているのが一番好きなのです。コロナの外出自粛は一向に苦にならず、出不精を決め込んでいましたら

足が弱ってきました。

それで毎日歩かなければと痛感しております。

先日は、会長から送って頂いた救世観音の写真と廣津和郎の文を大変興味深く読ませていただきました。



昨日、急に思い立って神宮外苑に黄葉を観にいってきました。午前の陽を浴び、ぬけるような青空に、きらめく梢の葉々。

時折りの風に舞い踊る葉たちのささやき・・・それは見事な空間でした。久し振りに新鮮な感覚に充たされました。

寒さに向かってコロナの活動が活発になりますので、肺に

「非結核性抗酸菌症」という病巣のある私としては、かなり

気をつけなければいけないと思っております。

皆様もお身体をお大切になさってくださいませ。

(会員 いわき市湯本出身)

東日本大震災

福島原発事故から

十年目を迎えて

今里 雅之

(富岡町から横浜市へ避難して)



原発事故が起きるまでの生活

◎福島での居住

私は福島県で生まれ、昭和四十二年に原発工事従事のため福島に赴任しました。

富岡町には昭和四十九年より居住で五十二年に自宅を新築し発災時は六十代前半でした。

◎「オジー」駆け寄って来る孫

富岡町では地域との繋がりを大切に、仕事に遊びに楽しく平凡な暮らしをしていました。

妻は専業主婦として私の仕事を支えてくれました。原発事故の数年前には、長女も世帯を持って私たちも肩の荷が下り、今後は仕事の傍ら、趣味や、友人・知人・親戚と平穏な生活を楽しみたいと考えておりました。

自宅の庭のブルーベリーや梅などをジャムにして食卓に並べるのも楽しみでした。

結婚して横浜に住んでいる長女夫婦や孫は、それを楽しみに毎年四〜五回帰郷していました。

もう今はない富岡駅舎から「オジー」と言っただけに駆け寄って来る孫の姿が今でも目に浮かびます。

自宅で長女夫婦や孫と一緒に過ごす時間が何よりの楽しみでした。長女や孫にとっぴつでも帰れる田舎であり、私たちの終の棲家でした。そうした平穏な生活は、原発事故の発生で一変しました。

◎発災から緊急時対応

↳避難過程

震災が発生した時、私は双葉町の会社事務所で勤務中でした。地震が収まると管理責任者として外勤者約八〇名の安否確認のため、交通網がズタズタの沿岸部を広野町〜浪江町まで必死の思いで駆け回りました。

確認を終え会社に戻った翌朝十日午前四時ごろでした。

双葉駅前でパトカーに「原子力緊急事態宣言が発令された」と

告げられ、安全神話が浸透している状況下でマサカの驚きでした。業務を終え帰路の途中で夕

イベック姿の警察官の避難命令で着の身着のまま川内村の避難所へ誘導されました。

妻とは別行動で連絡はとれず、避難所を探し回り、三カ所目で合流することが出来ました。

川内村の避難所には十五日まででしたが、トイレ近くの廊下で毛布もなく、臭いと寒さが強く脳裏に残っています。

十四日に横浜の長女とようやく連絡が取れて、長女宅へ避難することに。以来現在も長女宅近くに住んでいます。

◎私も妻も体調を崩し通院生活

移動しながらの避難や慣れない土地での生活によるストレスで、私は事故前と比べ体重が約十キロ減り、体調も不安定で、平成二十五年以降の健康診断では要医療となつてしまひ現在も腎機能や循環器などの治療をしていますし、慢性的に睡眠不足やストレスに悩まされています。

妻はもっと深刻で、避難生活による精神的ストレスから逆流性食道炎の発症や、平成二十三年

五月に突然、失神転倒して救急車で運ばれ、あごを五針縫う大怪我を負いました。

以来、現在も月二〜三回は通院治療を継続しています。現在も妻は体調がすぐれず遠出は出来ない状況で、一時帰宅すら思うに任せない状況です。

避難後、全町避難で離散してしまつたことで、親戚や友人・知人とも年に一回程度の連絡になつており、特に避難当初は家族以外とは全く音信がなく、孤立感で大きな苦痛でした。

◎自宅解体

一時帰宅の際に自宅に戻るたびに清掃・片づけを行っていたが、家屋の内部はネズミ・クモその他小動物により荒れ放題で、糞尿等の影響で柱、ドア等は害され、また侵入者による破壊箇所からの漏水があり、帰宅しても住むことはできない状況なのです。国からの解体助成制度の期限切れ等による焦燥感で解体を決断し平成二十九年十月末に解体しました。

◎避難解除後も見えない今後

◎加齢と生活不安は消えず
七十年代半ば近くになった現在、

帰還解除後にあれこれ帰還を検討しましたが、住んでいた行政区のほとんどの人は帰還しておらず、基幹のインフラは整備されたものの、日常的な買い物・医療通院などへの交通手段もない現状では生活の維持は難しい状況であります。福島への愛着で住民票は現在も移していません。更地にした宅地は昨年より自己管理となり課税も再開されましたが、瞬く間に雑草が生い茂り、遠隔地からの管理には悩むところで処分もできず今ではお荷物的存在です。

放射能による健康不安については、除染後二年半が経過した自宅跡地の環境省測定線量はスポット的に今も高線量を示しています。また廃炉工事の難易度、原発汚染処理水の海洋放出、全国的に積みあがる核燃料の処理等々居住に対する多くのリスクに対する不安もあります。

また避難解除から三年半経過の令和二年九月一日現在も富岡町への転入者を含む人口は発災時の10%程度の一四九八人で、この二年間はほとんど増えていません。



避難後のふるさととの関わり
◎避難者同士でふるさととの絆 確かめ合う
 平成二十五年夏ごろから、NPO法人『かながわ避難者と共にあゆむ会』の主催で、国・県・被災地自治体と連携したコミュニティ活動の場があることを知り、以来積極的に参加することになりました。そこには神奈川県中心に首都圏に避難した方々との出会いがあり、ふるさと自治体の参加もあり共に「絆」を忘れず集い、語り合う充実感がありました。このような状況で、避難生活五年目の平成二十七年七月に東日本大震災由来の被災当事者同士の集まりとして、地域を超えた仲間意識でふるさとへの想いを共有しようとの意見を持ち上がり、『かながわ東北ふるさと・つなぐ会』を発足させ、会長を引き受けることになりました。

避難者同士が孤立しないように「絆」を大切にしてバスハイクかながわ散歩カフェ・お茶っこ会・ヨーガ教室・ふるさとコミュニティなど『かながわ避難者と共にあゆむ会』の支援のもと

共催行事として年間を通じ交流・懇親会など楽しんでいきます。現在五十世帯・会員百名を超えル構成となっております。

◎ふるさとへの想いと伝統文化の継承

このような状況で、慣れ親しんだふるさとへの想いを記憶に残し、次世代に伝えたいと平成二十七年より自治体にお願ひし、浪江町十日市・双葉町ダルマ市富岡町えびす講市等に参加しています。

今年は春先からのコロナ禍で、すべての行事を見合わせていますが、帰還者も移住者も今後はさらに絆の輪を広げ、広域的に取り組みが出来ればと願っております。

【当会と緊密「かながわ東北ふるさと・つなぐ会」代表】



東日本大震災から十年

浪江町から鎌倉市へ避難して

松尾 弘美

これまでを振り返ってみます

平成二十三年三月

十一日 浪江町の中学校卒業式に来賓として参列後、自宅です

々遅めの昼食を済ませ部屋で寛いでいる時、突然、大地震が起こった。幾度もの余震により家具、調度品、食器などの倒壊する大音響に右往左往…避難へ。災害に備え準備しておいた貴重品や防災用具リュックを置いてある部屋へ入れず車に飛び乗る。

十二日 昨日避難して夜を明かした荻野小学校で翌朝、町職員が「原発事故により津島地区へ」との指示があり津島小学校へ移動。(ガソリンの残り一目盛)

二日目に学校のテレビで初めて地震、津波、原発事故の被害状況を知り恐怖に駆られる。津島地区小・中・高の校舎、体育館、町施設、お寺まで町からの避難者で満杯となりました。支援物資の毛布とペットボトルの水が支給された。

十五日 行政から再度の指示があり「実は町内でも津島地区の放射線量が一番高い」という事で、更に二本松市針道木幡の体育館(解体日までも決まっていた古い建物)へと小雪降るなか町のマイクロスバスで三度目の避難をする。

薄氷の張ったお握りとペットボトルの水での食事から、ポラントシアの皆さんにより熱いお茶を頂き、ご高齢の人たちは涙を浮かべておりました。それから地元の皆さんのご支援により、温かい食事を頂けるようになりました。

当時、基礎疾患で通院中の夫はインシュリン注射も薬も持ち出す事が出来なかつたうえ、風邪をひき、体調を悪化させておりました。山の中でバスも通らず、タクシ

ーもガソリン不足で休業しており、病院へは行けず困惑し、町の職員の方にお願ひし、緊急に病院へ行かせてもらいました。

十九日 埼玉県浦川市からお家族を車で迎えに来た方に、無理をお願ひし、電車の通っている処まで連れて行って頂き、福島

県を離れることになりました。娘の嫁ぎ先に一泊お世話になり、温かいお風呂、食事、お布団に生き返りました。

間もなく夫の病院へも行く事が出来ると先ずホッとしました。

二十日 鎌倉市の娘宅へ到着。

鎌倉市を始め、大勢のボランティアの方々から手厚いご支援を頂いて今日に至っております。夫は七年目、浪江町に帰ることなく、当地で逝って終わりました。

この十年を振り返って見て

穏やかな生活を奪われた人。夢や希望を打ち砕かれた人。人生の指針を曲げられてしまった人。

多種多様な傷跡を残された被災者の心は重い。

これまでの災害と違う処は、高い放射能セシウム等により、復興するために現地に入るのに数年の年月を要したこと。

心が折れてしまった人々も、生きるために帰町した人、帰町を諦めざるを得なかった人、迷っている人、それぞれ前向きに頑張っている現状を実感しているこの頃です。

(当会役員、かながわ東北ふるさと・つなぐ会副代表、浪江町から鎌倉市へ避難)



写真左が筆者、松尾弘美さん
令和元年十月当浜通り会旅行
裏磐梯五色沼にて

除染で出た汚染土などの行方

古市 正



私がふるさと福島県浜通りの現状から憂えていることは、除染で出た汚染土、汚染の高い焼却灰などの行方についてである。現在、その汚染土、焼却灰などは双葉町と大熊町にまたがる東京電力福島第一原発周辺に設置されている中間貯蔵施設にほぼ保管されている。中間貯蔵施設は、福島県内の除染で出て汚染土、汚染の高い焼却灰などを保管する施設であり、平成二十七年三月十三日の搬入開始日から三十年以内に県外に最終処分場をつくり、そこに搬出することを国が言明している施設でもある。この施設には、令和三年度中に、県内に仮置きされている除去土壌等（帰還困難区域を除く）が概ね搬入されることになっている。

この除染で出た汚染土、汚染の高い焼却灰などの行方に関してだが、私は、本当に三十年以内に県外に最終処分場を作り、そこに搬出することができるとか、受け入れてくれる自治体があるのか懸念している。

一般のごみ処理場建設やごみの受け入れだけでも大きな問題となり、その地区の住民の反対運動で計画が頓挫している例が多いからである。

ましてや、他県のそれも除染で出た汚染土、汚染の高い焼却灰などの受け入れである。

普通に考えても相当難しいと言わざるを得ない。

かといって国が言明したことである。

目論見があつてのことであろうから、三十年後の県外移転に向けて福島県民との約束を果たすべく、着実に進めることを政府には期待したい。

(役員 いわき市出身)

神奈川県 綾瀬市 議会議員



新型コロナ自粛 波部 信綱



「自分の安全は自分で守る」

「安全は人に頼るな、任せるな」

先が見えない私の想いを

コロナ来るな！もう来るな！

俺はしつかりマスクして、

家にこもって、さようなら！

人生いろいろ。生き方も色々。

「思いはすべてをつくる」

ようです。

私が日頃から心掛けていることを、三つご紹介させて頂きます。

一つ目は

「そう思ったら、そうなる」

出来ると思ったら、出来る。

出来ないと思ったら、出来ない。ということ。

私は出来るとしたら何をすべきかを考えます。行動します。

後ろ向き3Dを禁止します。

「だって」「でも」「どうせ」

これらの言葉の後ろには否定的

な言葉が続くものです。

成功につながる行動は起こりません。

せん。

自分をコントロール出来るのは言葉なのです。

言葉を選べば人生は変わること間違いありません。

二つ目は

「栄養」「睡眠」「心の元気」のバランスを整えること。

三つ目は

体を動かすことです。

生きていけば、良いことも、

悪いことも起こります。

起こった出来事は変えられませんが、自分の心は変えられます。

コントロール出来るのは、

出来ことではなく自分の心です。

「思いはすべてをつくる」

コロナストップを

救世観音菩薩にお願いし、

幸せのエネルギーを増やしたい

ものです。

(副会長 双葉町出身)

落ち込んでいる友達には

同情ではなく友情を見せること

人はどんな不幸にあつても

たくましく生き抜く力を

持っている

アラン(一八六八〜一九五二)

本名 エミール・オーギュスト

シャルティエ 仏 哲学者

奇跡のような黄金の日々

大原 未登里



昨年、県の集いで、ご挨拶させて頂いた際、「ここに集えるこの時間を共有できるのは、私は奇跡だと思います」と言いました。

会場から「えーキセキ？」との声が所々聴こえて来ました。私達は、十年前の東日本大震災で、これまで予想もしなかった原発事故に遭遇しました。そして見えない放射能から逃れ家族は「いわき」から「郡山」、「神奈川」へと避難を余儀なくされました。

集いで「帰りたいけど帰る所が無いんです」と言っていた言葉が胸に残っています。あれから十年が過ぎ、このコロナが世界中に蔓延しています。以前、目にした書物の中に、予言者が同じ様な予言をしてい

たのが甦りました。

まさかとは思っていましたが、現実起きてしまいました。

私は思いがけず、できた時間を、大切に使う事に決め、中医学の勉強に取り組んでいます。国際中医師の受験日を目指して空いた時間を学びに使用しています。今まで気がつかなかった小鳥の囀り、小さい花が咲く様や、太陽を浴びての朝の散歩にラジオ体操、自分自身をリセットしていける事に、有り難く思えてきました。

そんな中「アインシュタイン」の言葉がふと思い出されました。ノーベル賞受賞の少し前、来日した折、ボーイさんに渡すチップの持ち合わせがなく、直筆でメモを書き「これを持っていてください価値が上がるよ」と言っただけで済んだそうです。それが十数年を経て世に出てきました。

「静かで慎み深い生活は、常に不安に襲われながら成功を追求するよりも、多くの喜びをもたらす」当たり前と思っていた事が本当にありがたいこと。又健康が一番と心から思います。

中医学で学んだ事を、皆様に歌と共に精進を重ね、お伝えしていきたいと思えます。

皆様のご健康と安全ご発展を心からお祈り申し上げます。
「私達は毎日キセキの様な黄金の日々を送っていると心に受け止めて・・・」
又お逢いできる日を楽しみにしています。

(相談役 いわき市小名浜出身 歌手 大原音楽事務所)



心の言葉 鈴木 實

オードリー・ヘップバーンやマリリン・モンロー出演映画など数々の名作を残した映画監督で脚本家のピリー・ワイルターは、ナチスの迫害から逃れるため、欧州から米国へ移住した。ピザはメキシコの米領事館で申請した。送還されれば命を失う危険もある。

◇不安な思っていると職員から仕事を尋ねられた。
「脚本を書いている」と答える
と「いいのを書けよ」と入国を認めてくれた。

◇「私はそれ以来ずっといい作品を書くよう努めてきた。あの名前も知らない男性のお陰で今の私がいる」ワイルターは晩年のアカデミー賞授賞式で五十年以上も昔の一言に感謝した。
自分を支えてくれる言葉が心にある人は幸せである。

◇あと二ヶ月余りで東日本大震災から十年になる。新しい住まいを避難先に定めた人々も多い。これからも、この人々の背中をそっと支えて呉れる大切な言葉との出会いがあるとよい。大切な言葉は、ずっと心の糧となる。

今、このときを生きる

谷本 多美子



中国武漢のコロナウイルス発生から間もなく一年になる。当初から危機感をもちながら、なすすべもなく日を送っているうちに現在に至ってしまった。国の初動対応のずさんさなど挙げたらきりが無いが、そんなことを嘆いている暇があったら、今このときをどう生きるか考えて、実行に移そうと決めた。家籠りは長期戦になりそうだ。その前にまず自分の体を十分に休め、心にも栄養を蓄え、身の回りに起こる一つ一つに対応していこう。

そこで、東京がロックダウンになる直前の二月末、奥羽山脈の麓にある岩手県の小さな山村を訪ねた。

出生率よりも死亡率の高い、このママ單純に計算していくと、将来集落の人口はゼロになってしまう限界集落だ。

「今年は暖冬で例年の三分の一しか雪がない」とB&B

(Bed & Breakfastの略、民宿)のオーナーが言っていたが、東京近郊に住んでいる私には十分大雪だった。

北欧風の建物の内側はいまどき珍しい漆喰の壁、オーナーの真のおもてなしの心が塗りこめられているように感じた。

翌朝目覚めると、寝室のすぐそばから近くの森に向かって、狐の足跡が一直線に続いていた。急に動物の存在が身近に感じられた。

地元産食材で料理された朝食をゆっくり摂った後、オーナーご夫妻と、あの狐が走って行った森の中に歩くスキーに出かけた。白一色の森の中、雪の上に動物たちの無数の足跡、やがて迎える芽吹きの時まで、森は静かに眠り動物たちを休ませる。夢のような世界がそこにあった。三日間の滞在は瞬く間に終わったが、あの静かな時間は、その後の様々な思考のために削らなければならぬ命の糧になっている。

原発事故から間もなく十年を迎える。

世間からは忘れ去られようとしているが、福島の人々にとつて十年続いているといっても過言ではない。

どうしてこんなことが起きてしまったのか、新しい年も、原発に対して無知だった者の責任として、考え続けていきたい。

子や孫たちにこれ以上負の遺産を残さないためにも。(会員 南相馬市出身 小説家)

手品、不思議な出会い

鈴木 實

終戦の翌年寒漁村の豊間小学校に腹話術師平和太郎がやって来た。小四の私は、講堂で初めて腹話術と手品を見て驚き感動。人生の巡り合いとは不思議なもので転勤先の日本勧業銀行福島支店で平和太郎こと清野さんに十数年ぶりに再会、同氏へ融資を担当した(観光福島誌の制作資金)清野さんが来店のためび内緒で手品の手ほどきを受け、手品は私の生涯の友となった。どんな苦しい時でも手品を想えば心は青空になる。

避難者の皆さまとCHRISTMAS



皆様のご健康を祈り

吉田 房人



この度の新型コロナウイルス禍は、曾って無かった、悪しき事態を作ってしまった。

世の中のシステムが異状化し、日常の生活姿勢が完全に變化してしまいました。

色々な目的で集合開催の会合が全て中止となり、仲間や友人と会う事が出来なくなりました。誠に残念なことです。

人生を過ごして行く為に大切なものは色々ありますが、

私はその中で「友・友人」を本当に大切な大事なものと強く思っております。

私には色々なタイプの友が多く居られ、誠に有難く思っております。

年上の方、同期の方々

そして後輩の方もおられます。

皆様は色々な社会で、

豊富な経験、体験、をお持ちで



私は色々教えて頂く事が多々ございます。

又、叱咤激励を受け、前向きな姿勢に成り、事を成就させた事もありました。

誠に有難く思っております。

しかし、今年六月以降に四人の後輩の友達が亡く成りました。

皆、病没でした。

四人の友を思い出すたびに、

誠に悲しく、淋しく

心から残念に思う日々でございます。

友人とは、共に長生きして心残りの無い人生をと、心から願っているのですが。

会員の皆様にお伝えしたい。そしてお願いしたい。

「どうか健康に充分ご留意され、一度しか無き人生を悔いの無き様、永生きして頂きたい。

心から祈っております。

又、お互いに元気な姿でお逢い出来る事を心から楽しみにしております」

(幹事長 いわき市出身)

久元祐子ピアニストによる

苦難を超えるベートーヴェン

鈴木 實

昨年十一月十二日(木)の夕刻千代田区ニューオータニの隣り、紀尾井ホールにて久元祐子さんのピアノリサイタルを鑑賞して参りました。

私には二三期するところがあり、わくわくして久元祐子さんの登場をお待ちしました。



それは・・・

①ピアノ制作で世界最古のウィーン・ベーゼンドルフ・ファア社が日本で唯一人のベーゼンドルフ・アー・アーティスト、久元祐子さんのためにウィーンで制作された話題のピアノ「二八〇VCピラミッド・マホガニー」が、

日本に初登場して、今宵お披露目演奏になるからです。

どの様な温かな、敏捷な、圧倒する音色を聴かせて頂けるのか期待は高まるばかりでした。

もう一つは・・・

②ベートーヴェン生誕二百五十年を記念して、久元さんのプログラムにベートーヴェン作曲のピアノソナタ二番「ワルトシュタイン」が演奏されることになってからです。

久元祐子さん演奏による数多くのCDの中でも、この「ワルトシュタイン」は特に、各音楽誌がそろって、現在聴く事のできるベートーヴェン最高の演奏であると絶賛しています。

私はかねてより、久元さんのこの演奏をぜひ拝聴させて頂きたいと思っております。

今夕夢が叶い、話題の新ピアノと相まって期待が高まるばかり、わくわくでした。

演奏が始まる前に、内緒のお話をちよつと・・・

打ち明けますと、この入場券を私は手に入らなかったのです。

いつも久元さんの入場券の案内をして下さる主催者で入場券を

令和3年1月15日

管理しているプロ・アルテムジケ社に電話で申し込みますと「入場券は即日完売しました」との返事。

「しまった！」と私。

意を決して久元さんにご連絡し

「一枚だけでも何とかか…」

お願いしましたが、久元さんも

持ち合わせてないとのこと、

「キャンセルが出ましたら一番に

送らせてます」とのご厚意をに甘え

させて頂きました。

開演前に演台に置かれてスポット

ライトを浴びているピアノ。

入場者が次から次とマホガニーに

覆われた美しい姿をカメラに収め

ており、本日のもう一人のスター

でした。

久元祐子さんが、何度もウイー

ンの工房に足を運んで、細部に

わたって打合せて作り上げた楽

器「ベーゼンドルファー

二八OV C

ピラミッド・マホガニー」とは、

オーストリアのアルプス山脈で

新月の晩に伐採される樹齢九十

年の木々。

それらを五年の歳月をかけて自

然乾燥した後、時間をかけて制

作されていくベーゼンドルファ



久元さんがウイーの工房に何度も足を運び、各セクションの職人さん達と顔馴染になり、理想の音色を語り合い、楽器の心臓部のアクション、打鍵後の返り、全体の木目模様まで議論して制作されたそうです。

周りは、美しいピラミッド・マホガニーで覆われ、ピアノのボディから木のエネルギーがあふれだすかのよう。

響板から豊かで気品に満ちた響きが伝わり、幸せな空間に導いてくれる。と伺っておりました。満場の拍手により

久元祐子さんが深紅のドレスをなびかせてご登場されいよいよ開演です。

モーツァルトとベートーヴェン素晴らしい演奏を心行くまで堪能させて頂きました。

特に「ワルトシュタイン」は素晴らしく、第一楽章などでは、目をつぶって聴いていた私は、音楽の大きなうねりに、ハッと

前にしている様な錯覚に襲われました。

コロナ感染防止策の中でしたが初めて聴く力強く優しいピアノ。そして名演奏感謝申し上げます。

久元祐子様プロフィール

国立音楽大学教授、著書多数
世界的ピアノリスト、CD多数
歴史的ピアノ蒐集家

神戸市長夫人
当浜通り会相談役



善心誕生会

松井 泰憲

私が関係している会合の一つに善心誕生会（良い心を持つている人の誕生会）というのがあります。今から三十年前に七十代の人が五・六人集まって月一回飲み会をしていました。その人達が仲間に声をかけて集まった会合です。

JR中野駅から五、六分の処にある「赤ひょうたん」という居酒屋に毎月三十から三十五人が集まって午後六時から八時まで楽しんでます。

男女半々で平均年齢は七十才位でしょうか規則は特にありませんが暗黙の次の約束があります。

- ① 他人の悪口は云わない。
- ② 金銭の貸借はしない。
- ③ 物品の販売はしないこと。

会費は年会費二千元（通信費）当日会費は四千元です。

食べ物はずっぷりあり、飲み物も飲み放題です。

車で参加する人もありノン・アルコールビールの方が二割位います。ご夫妻での参加者は三組おりましたが今は一組です。

掘りこたつ式のテーブルが四つあり、それぞれ八名が座ります。最初に、誕生月の皆さんがメイソンの席に座ります。その男性には女性会員から、女性には男性会員から花束と記念品の贈呈があり記念写真撮影に入ります。年に一・二度は中野サンプラザで洋食&カラオケで行います。その時は会員の友人同伴もあり五十名から六十名位になります。会員の中にはプロの芸人もおり一流の芸を堪能出来ます。

例えば、野菜（大根・人参・水道管など）で演奏する九十二才の、はだのぼるさん、たばこの芸で世界的なブラック島田さんもお楽しみさせてくれます。席は自由に移動してもよいので一晩で色々な方と話す事が出来皆さん楽しんでおります。

私と甲斐さんという九州大出身で地図の出版社・帝国書院の役員をなさった方が代表世話人をしてます。この方とは不思議なご縁がありました。

甲斐さんが高校時代に英語を習った北野富士雄先生に、私は明治大学でドイツ語を習ったので

す。甲斐さんが東京の高校のクラス会で、私と同じ年令の「明治大学の松井泰憲」という方を御存じですかとお聞きしたら

「よく知っています」と言われたので、びっくりしたそうです。

私は現役の時も卒業してからも北野先生と年賀状や暑中見舞状を交換していたのです。事務局

長の平野さん（男性）は音楽大学の出身ですが、囲碁八段

（アマチュアで最高位）車庫を改造して二十

名が座れる暮会所を作りました（日本棋院許可を得て）最近はお客が来ないそうです。

事務局次長は加等さん（女性）

は平野さんと共同生活をしてます。さて、この善心誕生会は男女、年令、職業、学歴を問わず中・高齢者の集まりです。（副会長 いわき市泉出身）写真左はし 筆者 松井 泰憲



新型コロナウイルス禍の中で

久保田 則男

「容態が急に悪くなったのでこれから緊急帝王切開手術を受けます」愛知県の娘婿から四月十六日午後十時電話があった。娘は五日



日前総合病院に入院していた。そろそろ生まれる頃と思っていた矢先の知らせに驚いてしまった。病院にはコロナの患者も入院しているらしく嚴重な規則があり彼は病院の外で待機していた。四月とはいえまだ寒いし、妻やこれから生まれてくる子のことを思うと相当心細かったと思う。私たち夫婦も埼玉から駆けつけ励ましてやりたかったが、緊急事態宣言中で出来なかった。

出産は病ではないと思っていたが、とんでもない誤りであることが分かった。出産は何があってもおかしくはない、最悪の場合母子ともに死亡することもあることを知った。去年生まれ

た赤ちゃんが一歳の誕生日を迎えずに千六百人以上亡くなっていることも。私は父の位牌に向かって叫んだ。「おやじ助けて呉れ、娘と生まれ

てくる孫が危ないんだ。おやじ頼む！」と。妻も神棚に手を合わせて祈り続けた。七十二年の人生でこんなに辛いことはなかった。娘婿の身体のことにも心配した。それから一時間後娘婿から電話「赤ちゃんが生まれました。三千五百八十グラム、母子共に元気」と。嬉しかった。涙が出た。早速、父に「願いを叶えて呉れて有り難う」とお礼の合掌をした。そして娘は五日後に退院。産後はわが家で妻が世話をするのだが、仕事の関係で娘婿の両親にお願いした。優しい人たちで安心だ。誕生から二カ月後、初宮詣りでコロナのため仏滅の日を選んだ。緊急事態宣言中だが、夫婦で愛知へ行き娘夫婦をねぎらい、娘婿の両親にお礼を申し上げた。初めて見る孫娘は、大変な経験をしただけあって、とても逞しく感じた。それにしてもわが家の孫たちは、国難の年に生まれる。東京の孫娘は東日本大震災の日から二カ月後に生まれた。忘れられない九歳だ！

(副会長 川内村出身)

写真左から

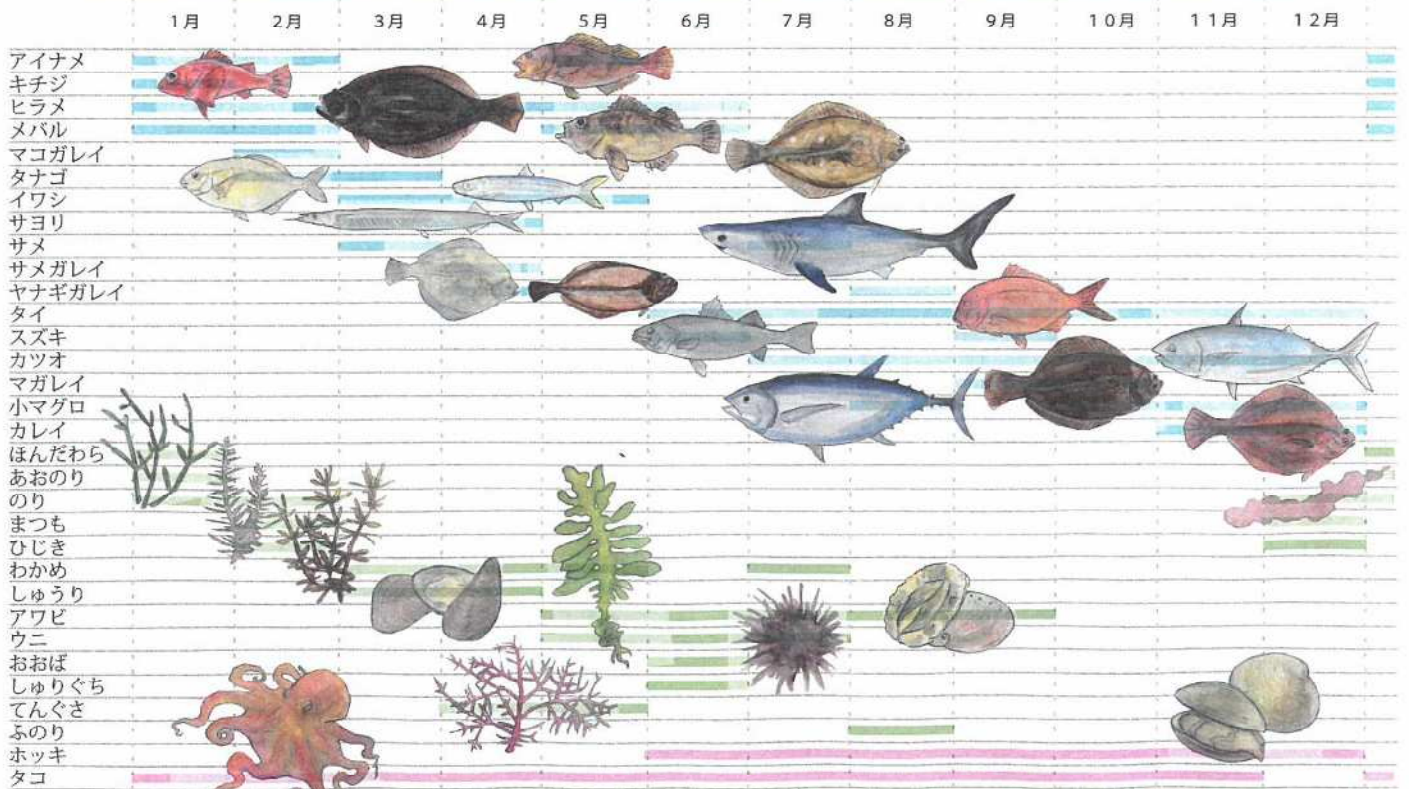
筆者・久保田則男

鈴木實、吉田房人

浪江町役場訪問の

帰途請戸漁港にて





豊間の磯場・薄磯の浜・沼ノ内の浜
漁種別 年間カレンダー

薄磯

豊間

沼ノ内

〈調査協力者〉
鈴木 利明 鈴木 末子
志賀 隆一郎 鈴木 昭雄
鈴木 正明 鈴木 義夫



耳を澄ませば灯台の霧笛と

兄弟の笑い声が聞こえる

鈴木 實

私のふるさとは十年前の大津波で何もかも総てが壊されてしまいました。

前のページ上の写真は私のふるさと、いわき市平豊間が壊滅する前の最後の勇姿です。

豊間湾は左に白亜の塩屋埼灯台右に豊間二見ヶ浦、砂浜は遠浅さで広く純白の砂。松林を配し風光明媚な夢のような処でした。

この海の沖は、暖流と寒流のぶつかる場所で、前ページ下の図のように、魚介類が豊富で名前の通り豊かなまちでした。

東日本大震災による大津波は、一瞬にしてこの地に住む人々を暗転させてしまいました。

このページの上の写真は豊間塩屋町の防潮堤と海岸道路に面して立つ「えびすや」の三階から同館鈴木氏が決死の覚悟で豊間湾を襲う大津波を撮影したものです。

大津波は複雑に絡み合い巨大になり（いわき市の海岸では最高九・二メートル）第二波、第三波と続き、総ての防潮堤を破壊

し、家屋と住民を飲み込んでいき、豊間の大津波による壊滅状況は、筆舌では表せない酷いものでした。

この地には、私の長兄と次兄と姉が住んでおり被災しました。

三家族の家は総ての家財と共に破壊され太平洋の彼方へ流失し、次兄と姉が溺死し、実家を守る長兄のみ所用で他所へ出掛けており難は逃れたがショックは大きく、避難先で病気になる病院で亡くなりました。

故郷の兄弟を失い、親戚、中学同級生の多くを失い、故郷は淋しい場所になりました。

幸いに甥や姪は難を逃れたので皆で励まし合い、力を合わせて故郷を元気にして下さい。

「浜通り会の仕事、ちゃんとやっているの」幾つになっても弟はかたなし。姉の笑い声が聞こえる。

震災発生後、大勢の皆さまから、当会への義援金に添えて、私への励ましの手紙を頂きました。

この手紙は永久に私の宝物です。十年の節目を迎え、一部ですが「次の紙面をお借りし」披露させていただきます。

鈴木 実 様

お手紙読ませていただきました。新聞やテレビでこのたびの地震・津波そして原発による惨状は承知していましたが、身近な人の壊滅的な状況を知ると、改めて悲惨な現実が胸を打ちます。何と申し上げてよいか、言葉もありません。

貧者の一灯ですが、本日、みずほ銀行三ツ境支店のご指定口座に10万円振り込みいたしました。被災地の方々の生活再建の足しになれば幸いです。

私の妻、「太田昭子」からも振込があるかと思えます。また、昨日はたまたま、嫁いでいた娘たちが実家の我が家に戻っていたので、頂いたお手紙を回し読みさせますと、それぞれが異口同音に義援金を拠出したいとの意向でありました。振込口座に、もし、「山梨真奈美」「田中真由美」「倉上真美（くらかみまさみ）」の名前がありましたら、それらは私の娘たちです。

お手紙を頂いた後、福島県の地図を広げて見ました。「塩屋の岬」、ご郷里は本当に海の近くの風光明媚なところだったのですね。

そこが、今は惨憺たる状況にありますが、浜通り会の皆様が、くじけずに、気力を奮い起こして再建に奮闘されることを心から祈念いたしております。

平成23年4月4日

太田則利

銀行の本部（証券部）上司。
横浜市緑区ご自宅玄関で
鈴木實画伯？の描く洋画
「シクラメン」が見られます。

太田 則利様 10万円
太田 昭子様 10万円
山梨真奈美様 10万円
田中真由美様 5万円
お家族皆様で 35万円
当会へご寄贈

経理のしくみ

定価： **本体1300円** + 税

平成9年5月25日 初版発行

平成14年5月20日 15刷発行

●著者紹介●

太田則利（おおたのりとし）

1931年9月2日、大分県生まれ。1955年3月、東京大学経済学部卒業。(株)第一勧業銀行 ひばりが丘、岐阜、八王子各支店長、(株)第一勧銀経営センター(現在の(株)第一勧銀総合研究所)取締役セミナー事業部長を経て、1991年4月、公認会計士社会計事務所に入所、1993年7月、税理士登録、同年開業。現在、太田会計事務所所長として、中小企業の経営相談、経理、税務の実務指導に活躍中。



鈴木 実 様

この度の予想外の災害に遭われご親族を含め心からお悔やみ申し上げます

連日のテレビ報道で現地の皆様方の想像を絶するご被害に心を痛めております

私のような微力な者が何のご協力もできずに申し訳ありませんが昨日郵便局宛心ばかりお振込みをさせていただきました

実は私も昨年6月に急に自宅で倒れ両手両足の力が抜け緊急入院しました 検査の結果「脊髄梗塞」とわかり現在も連日リハビリで徐々に戻りかけていますが、元の健康体には戻らないといわれています 好きなマジックもできなくなりました

しかし皆様のご災難に比べれば比較になりません もっと何かご協力ができると思うばかりです

ぜひ同期の「さんまる会」にも呼びかけられてはいかがでしょうか 私も事業の借入金の返済や、来年5月までの住宅ローン」の返済に苦勞もしているため、十分なご協力ができずに心苦しく思っています、お許してください

今朝もテレビを見ていますと世界中のみんなが日本を応援してくれています

どうぞ希望をもって戦後から立ち直った日本の力を、もう一度発揮して次代に伝えたいですね



DKBのマジシャン・市川博三さんは、各店の周年パーティーや受賞パーティーで大活躍

市川博三

当会へ5万円ご寄贈

銀行の同期 (滋賀県在住)	昭和56年、昭和 天皇陛下満80才
昭和47年太平洋 沿岸奇術連盟主催 マジックコンテス ト・ハワイ大会に 出場、スライハン ド部門で優勝	祝賀家族パーティ に招かれ皇居にて 披露。 昭和59年ニュー ヨーク世界マジッ ク祭にゲスト出演。

鈴木 實様

23・4・2

拝復、お便り拝見しましたが、兄上、姉上が津波の犠牲となられた由、心からお悔やみ申し上げますと共に、貴兄の故郷の大被害に対し誠に御気の毒なことと同情申し上げます。千年に一度といわれる今回の大震災は想像を絶するものがあり、毎日の報道に心を痛めております。貴兄が福島浜通り会の会長として被災者応援のため、日夜を分かたぬ活動を続けられていることに対しても深甚な敬意を表する次第です。

私の幼年学校同期生の一人も、相馬市に居住しておりますが、津波が家の近くまで押し寄せたとのことでした。

今こそ国民が一丸となってこの国難に対処しなければならないと痛感している次第です。

私の所属する銀座ロータリークラブでも精一杯の義捐金をお送りすることを決めましたし、理事長を務めている旧陸軍の借行社も会員からの募金により、全力投入中の自衛隊に応援の品を送ることに致しております。

本日僅かではありますが、貴会口座あてに義捐金をお送りいたしましたので困っている方たちのためにお使ください。

ご健康にご留意の上、ますますのご健闘をされますようお祈りいたします。

敬具

福田一彌



銀行の本部証券部で上司
人事第二部長、常務取締役
日宝販社長など歴任

震災後間もなくご逝去。
ご一緒したゴルフと日本酒
の愛好家。仏壇に福島銘酒、
「千駒」を捧げる。

FROM : 杉

TEL NO. : 093 932 1452

2011. 4. 4 10:01

平成23年4月4日

鈴木 実 様

お手紙拝見致しました。

この度の東北大震災に際しては、被災者の皆様を思い大変心を傷めておりましたが、兄上と姉上が大津波により命を落とされたとのこと、お慰めする言葉もありません。心からお悔やみ申し上げます。

浜通りはまた、原発事故という大変な状況に遭遇されていること、何とか早く終息することを祈っております。

そのような中で、貴兄は東京福島県人浜通り会の会長として、被災された皆様の支援にご活躍のご様子、大変感銘を受けております。

遠くにおりまして何もお手伝いできませんが、どうぞお身体に気をつけて頑張って下さるようお願い致します。

義援金は僅かですが、本日郵便振替にて振り込ませて頂きましたので、お役に立てて頂ければ幸いに存じます。

星 勇



(注) 当会へ義援金寄贈
磐城高校同期 (同組の親友)
東陶機器 (株) 人事部長
専務取締役 歴任
北九州市小倉南区 在住

鈴木 様

と 別 略

二のたびは機関誌はまごおりをお送りいただきありがとうございます。引き続き、ふるさとへの支援活動を展開させておられるよう、大変、強く有難い気持ちです。また、懇親会のスタッフも拝見し、皆様の元気のある姿が南三人てくるかのように感じた。妻女もとても当帰と振り返りながら読ませていただきました。

私たちが元気にやっております。自宅のほうは店舗の建て替えが始まりました。マチも他地区からの転入者や復興関連の業者の方々が多いように活気にあふれています。新たなステーションに入った、と実感しております。

先月のいわきサンシャインマラソンの様子や報じた新南を同封いたします。私も参加したので、津波の被害にあつた江名、中之作、永崎はこの住民の方々も応援させていただいて、大変に温まる一日でした。ご住民、市内外の人たちが力を合わせれば、二人は素敵な空間をつくられるのだから、未来もきっと良くてきます。そんな熱い気持ちで返させていただきます。



当会と樺ロータリーが手を携えて平成二十三年十月八日・九日にさいたまスーパードアアリーナ前で東日本大震災応援消費物産展を実施。ご出店の皆様全員による記念写真。中列左から二人目と三人目が青木貴司ご夫妻。



大切な人を守る 「防災お味噌」を。

山田屋醸造（5代目）青木貴司

福島県いわき市平字久保町24

電話 0246-22-3637

当会「創立30周年記念誌」142頁
に掲載の山田屋醸造様の広告より

味噌は、栄養があって美味しいうえに

“病気を予防する効果が期待される” 機能性食品です。

当店では より良い味噌を求めて麹菌に特許取得菌AOK-139を
全面導入し、仕込んでおります。

この菌は 微生物総合スターターメーカー・秋田今野商店が開発した麹菌で
通常の味噌と比べて 3倍免疫力が高くなること、同時に香りが高くなること
が実証されたものです。

創業130年、これからも皆様の質の高い食生活をサポートしていきたいと
考えております。

平成二十四年三月十七日

山田屋醸造
青木貴司

被災者から普通の市民に戻る年です。皆様からの式持ちを
力に焦らさず腰を据えて味噌づくりに励んでまいります。
最後になりましたが、返信が遅くなりましたが大変失礼をいたしました。
例年にくまやかだった冬も出まかせが見えてきたようです。とほいん、
まだまだ油断してきはい天候がつかつかのこと。どうか、くまやかも
三無理なさらぬようお過ごしくださいませ。

草々

特別企画

東日本大震災から満十年

当会の支援活動を振り返る

東北地方三県に深い傷跡を残した東日本大震災発災から満十年。その間の、当浜通り会の支援活動を振り返ります。

平成二十三年三月十一日（金）午後二時四十六分、M九の巨大地震が発生。

一時間後にやって来た大津波。東電福島第一原発の爆発と放射能漏れ。

浜通り地方とその周辺の住民も含めてこの時から、この大震災に伴う三重苦を背負わされ全国各地へと避難に追いやられた。

① まず会員の親戚に手を

当会会員の総てが直接、間接の被災者。まず親戚や友人知人の支援を全会員にお願いした。

② 支援募金活動開始

大震災の発災直後から、全会員と全関係先に対し、支援募金をお願いを開始した。

③ 早急の支援金配布

発災三カ月前に当会役員が二度に亘り訪問した浜通り地方十三市町村長の周辺から「一刻も早

く」との言葉に呼応し、四月初めまでに、浜通り地方十三市町村の内、いわき市と相馬郡各市町村につき一カ所十万円〜二十万円を災害対策口座に振り込む。特に混乱の著しい双葉地方には継続支援が急務との観点から、先ず一括金を双葉町村会へ送り同会にて緊急物品に換えて配布をお願いした。その後、支援は継続している。

④ 双葉町の埼玉県避難対応

三月十九日

双葉町民千二百名がバス四十台にて埼玉県「さいたまスーパーアリーナ」に避難とのTVニュースにより、当会役員で埼玉ロータリー役員兼務者と緊急協議し即日支援体制を整備する。

三月二十日

当会長と同アリーナに近い役員三名の四名と、埼玉県の同アリーナ近隣四ロータリー代表四名の計八名が、朝九時に同アリーナ前に集合。午前十一時から同アリーナ四階役場スペースにて井戸川双葉町長と会談を行う。

当会と埼玉県内全ロータリーとが、双葉町民を強力に支援して行くことで合意する。

⑤ 双葉町へ生活支援金贈呈

三月三十日

双葉町民が旧騎西高校へ移転日の当日、近隣四ロータリーが、当会長の立会のもとに、井戸川双葉町長に三百五十万円を贈呈した（これは旅行の積立金に加え、四ロータリーが会員募金を行い準備したもの）

この贈呈式席上で当会長が国際ロータリー第二七七〇地区最高責任者、井橋吉一ガバナーを、井戸川双葉町長に紹介し、全ロータリーの本格的支援を承認す（井橋氏は埼玉県内八十のロータリークラブを管轄している）

六月二十一日

国際ロータリー第二七七〇地区井橋吉一ガバナー他に当会長が立ち合って旧騎西高校を訪れ、ロータリーから井戸川双葉町長に生活支援金五百万円の贈呈を行った。

⑥ 国際ロータリー第二七七〇

地区の被災地支援に当会長の同行先

標記ロータリーガバナー一行に当会長が同行先の一覧
・宮城県・岩手県ロータリー
（同県緊急支援金）一千万円

平成24年3月6日 南相馬市 青葉幼稚園支援



園児を前に全員で記念写真

三春町避難 富岡一中・二中・一小・二小支援



4人の校長先生・生徒を囲んで

・福島県ロータリー

・(同県緊急支援金) 一千万円

・相馬郡飯館村

(同村生徒支援) 五百万円

・富岡町

(三春避難小中4校) 三百万円

・南相馬市(青葉幼稚園財政)

百三十六万円

⑦ 浜通り地方役場見舞訪問

平成二十三年五月一日

富岡町長 遠藤勝也様

(郡山市ビックパレットふくしま)

川内村長 遠藤雄幸様

(郡山市ビックパレットふくしま)

平成二十三年六月二十九日

飯館村長 菅野典雄様

(福島市飯野、ロータリーと)

平成二十四年六月二十六日

浪江町長 馬場 有様

(二本松市内)

富岡町長 遠藤勝也様

(郡山市内)

平成二十四年六月二十七日

大熊町長 渡辺利綱様

(会津若松市内)

平成二十五年十二月十二日

広野町長 遠藤 智様

平成二十五年十二月十三日

楢葉町長 松本幸英様

(いわき市)

双葉町長 伊澤史朗様

(いわき市)

平成二十七年十一月二日

南相馬市 桜井勝延様

相馬市長 立谷秀清様

新地町長 加藤憲一郎様

令和元年七月二十三日

葛尾村長 篠木 弘様

川内村長 遠藤雄幸様

令和元年七月二十四日

楢葉町長 松本幸英様

富岡町長 宮本皓一様

広野町長 遠藤 智様

令和元年九月二十六日

いわき市長 清水敏男様

双葉町長 伊澤史朗様

(いわき市)

令和元年九月二十七日

大熊町長 渡辺利綱様

浪江町長 吉田数博様

⑧ 「被災ふるさとへ希望を贈る集い」開催

ふるさとに物心共に希望を贈る人々が集まる。

第一回 二十四年一月二十八日

第二回 二十五年一月二十七日

第三回 二十六年五月二十五日

第四回 二十七年 四月 五日

第五回 二十八年 四月 十日

第六回 二十九年 四月 九日

「双葉郡町村長・同議長・町村職員に刺繍名入り作業着寄贈」

双葉郡八カ町村長・同議長・町村会職員(二十一着×二)を寄贈。冬物 二十三年五月十七日 夏物 二十四年七月 六日

⑨ 主要な贈呈及び催事

【大震災応援消費物産展】

第一回 二十三年十月八、九日

第二回 二十四年十一月十日、十一日

当会と「さいたま櫛ロータリー」の共催で行う。

会場「さいたまスーパリアリーナ」入口にある「けやき広場」

福島県から各業者がトラックで運び込んだ商品を全て販売した。

【被災地高卒予定者就職試験】

平成二十三年十二月二十日実施(会場)福島県看護会館 みらい郡山市

「発端」当会長ほか当役員二名と国際ロータリー第二七七〇地区

前期ガバナー 井橋 吉一様 当時ガバナー 三国 明様

次期ガバナー 田中 徳尚様 の三名との「震災支援会議」の席で、当会提案の本件を採用頂く。

「双葉郡町村長・同議長・町村職員に刺繍名入り作業着寄贈」



国際ロータリー第二七七〇地区と埼玉県労働局の共催のかたち埼玉県協力事業所は三十五社。当初二十九名合格するも最終的に十二名が就職した。就職祝賀会は平成二十四年五月二十六日「ラフレさいたま」で開催されロータリーから祝儀金一封、当会から記念品を贈る。

【双葉町井上副町長に来浜頂き 社団法人日本ボイラ協会大会 (支部長三菱重工業、神奈川県全工場長出席) で講演】

平成二十四年十一月九日実施 於 横浜市キヤメロットジャパン 井戸川町長病気のため井上副町長に来浜頂き双葉町被災現況をお話、直接間接の協力を求める。

(注)企画調整 鈴木会長 豊間中学校のバス運行費支援】

平成二十五年五月二十八日贈呈 桐生由久子校長から懇願のあった「クラブ活動バス運行費」について考慮中、櫻井典子当会相談役が全額ご負担を申し出て下さり、当会名として百万円を同校桐生校長・PTA会長に贈呈支援した。(注)当会長が卒業・生徒会長

【当会と川口北ライオンズクラブで久之浜町商工会を支援】

平成二十五年六月三日訪問支援 いわき市久之浜小学校で営業中の久之浜町商工会(坂本一朗会長)を訪ね支援。当会の紹介により、同ライオンズクラブ(当佐藤昌治当副会長が役員)が同クラブ余剰金を贈呈した。併せて当会も義援金を支援した。

【元気の溢れ出る絵画を寄贈】 平成二十七年八月二十七日訪問 当会長、松井副会長、新妻芳子



2012/04/15



役員が、いわき市役所を訪れて市長室に於いて清水敏男市長に「元気の溢れ出る絵画」を贈呈。新妻芳子画家(二期会)制作で題名は「甦れわがふるさと」F六十号、当会員の一部募金と新妻氏の寄贈による。現在も、久之浜被災者集会所に展示され災害住宅のたくさんの皆様に元気を贈り続けている。

【双葉町いわき市勿来酒井地区 団地オーブン式典祝賀催事】

平成三十年六月二十三日実施 午後三時、祝賀催事として伊澤双葉町長から幹旋依頼を受けた小椋佳コンサート(勿来市民会館に酒井地区ほか双葉町民八百名をお迎え)が無事に開催された。

(小椋佳氏、佳穂里夫人、長男の知秀氏も同じ車で来訪。楽屋で楽しいひと時を持つ。鈴木会長) 【久元祐子相談役(世界的ピアニスト)が被災者に希望を贈る集いで無償ご演奏を頂く】 (希望を贈る集い)

平成二十四年四月十五日

平成二十八年四月 十日 (創立三十周年記念祝賀会)

平成三十年四月二十一日 【大原未登里相談役(歌手)が避難者救済コンサートを赤坂と銀座で開催、益金を当会へ】

①二十七年十一月八日 ピーフラット 赤坂三丁目

②二十九年十一月五日 銀座シャミオール 港区銀座

⑩【母県支援会員懇親旅行】

平成二十四年十月十四、十五日 会津若松市・鶴ヶ城、東山温泉

平成二十六年十一月十七、十八日
スハ・リゾート・ハワイアン

(いわき市・双葉町を表敬)

平成三十年十月十一、十二日

白河市・小峰城、南湖、白河関

令和元年十月二十、二十一日

裏磐梯地方・檜原湖、五色沼

⑪「NPO法人かながわ避難者と共にあゆむ会」と連携活動

神奈川県のある人たちが震災直後から被災地へ赴き支援活動を行って来たが、神奈川県への避難者の増加により方向転換して被災三県からの避難者支援に特化した。(神奈川県への避難者は最大四千六百名)。

当浜通り会長が、あゆむ会の代表に推挙され兼務し支援活動を展開する。

代 表 表 平成二十五年四月より
理事長 平成二十六年七月より
顧問 平成三十年六月より

神奈川県「かながわボランティア活動推進基金二十一」から、毎年一千万円の支援(現在は終了している)を受け神奈川県と共に多様な共同事業を展開してきた。

(文責 会長 鈴木 實)



原田直之さん
大原未登里さんが
心の歌で、
避難の皆さんに
故郷、笑顔、安心を、
いっぱい、いっぱい、
下さいました。
赤い靴の浜のチビっこも
元氣をお贈りします。



“東日本大震災発災十年特別号” 目次

頁	ご執筆	寄稿文の題名
1	鈴木 實	新しい年と、震災十年を迎えて
2	吉野正芳様	大震災発災から十年に想う
3	佐藤正久様 川久保 格様	コロナ禍での初の新年に寄せて コロナ禍に思うこと
4	田中慶秋様 原田直之様	大震災の発災十年目を迎えて コロナ自粛の中で
5	徳田 實様 伊藤克子様	伝染病と人との戦いの歴史 神宮外苑、黄葉のささやき
6~7	今里雅之様	大震災福島原発事故から十年目を迎えて
8	松尾弘美様	大震災から十年浪江町から鎌倉市へ
9	古市 正様 渡部信綱様	除染で出た汚染土などの行方 新型コロナ自粛
10	大原未登里様 鈴木 實	奇跡のような黄金の日々 心の言葉
11	谷本多美子様 鈴木 實	今、このときを生きる 手品、不思議な出会い
12	吉田房人様 鈴木 實	皆様のご健康を祈り 久元祐子ピアニストの演奏を聞く
13	同上	同上
14	松井泰憲様	善心誕生会
15	久保田 則男様	新型コロナ禍の中で
16	いわき市平豊間	風景写真と魚種一覽
17	鈴木 實	耳を澄ませば灯台の霧笛と姉の笑い声が
18~21	大震災お見舞い状	太田 則利様 他3名
22	青木貴司様	さいたまスーパーアリーナ物産展礼状
23	同上	同上
24~27	特別企画	大震災から満十年当会の支援活動
28	目次・編集後記	

編集後記

本紙「はまどおり」にたくさん
のご投稿を頂き有り難うござい
ました。大震災十年目の到達に
当たり、被災浜通り地方今後の

飛躍・発展に引き続きご支援を
宜しくお願い申し上げます。
全世界の注目を集めていよいよ
オリンピック聖火がJヴィレッツ

ジ（楢葉町・広野町）から出発
します。今年こそ浜通り地方・
福島県に嬉しいことがいっぱい
起こる事を祈ります。

編集委員長 久保田 則男

東京福島県人浜通り会	預貯金口座
本部住所 〒246-0023 横浜市瀬谷区阿久和東2-31-9 鈴木 實 方	① 郵便振替貯金 00250-9-130750 (名義) 東京福島県人浜通り会
電話 & FAX 045-365-2622	② みずほ銀行(0001)三ツ境支店(367)
携帯電話 090-6008-0357	普通預金 1625675
メールアドレス hama-ayumu-minoru @ docomo. ne. jp	(名義) 東京福島県人浜通り会